

○新公立病院改革プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

岡崎市民病院

【地域医療構想を踏まえた役割】（P29）

地域医療構想では、当圏域の平成 37 年の必要病床数を高度急性期 231 床、急性期 706 床とされましたが、**当院の 715 床の機能は高度急性期及び急性期の機能を役割としていきます。**

当院は、西三河南部東医療圏で唯一の急性期総合病院として、また 3 次医療機関として重症疾患、救急疾患など高度急性期医療を一手に担ってきました。この最も重要な役割を今後も担っていきます。一方で、2 次救急病院が十分に機能していないこの医療圏では 2 次救急医療のかなりの部分も当院が受け持ち、年間 9,500 台を超える救急搬送を受け入れています。近年、高齢化が進み、高齢者の肺炎に代表されるように、高度な医療は必要ではないが入院は必要といった患者や入退院を繰り返すような患者が増加してきており、2 次救急患者の多くがこうした患者で占められています。今後、この傾向はさらに増すものと思われ、引き続きこうした医療ニーズにも応えていきます。

開院が予定されている学校法人藤田学園の新病院とは協調的な関係により、当院は高度急性期と急性期を担い、限られた医療資源、設備を最大限有効活用し、**圏域内の機能分担が図られるように努めていきます。**

【再編・ネットワーク化の必要性の検証】（P29）

- 岡崎市民病院周辺では愛知県三河青い鳥医療療育センター、岡崎市子ども発達センターが開設され、既存の愛知県がんセンター愛知病院を含め「岡崎医療ゾーン」とも呼べる地域が形成されます。今後のがん患者増加、特に高齢のがん患者が増加することが予想されることから、共のがん治療を担っている愛知県がんセンター愛知病院との連携強化を図るために新たに協議会を設置し、両病院の医療連携のあり方について協議を進めます。
- 認知症施策推進総合戦略に基づく認知症疾患医療センターとしての体制を強化し、認知症の人の地域生活を支える医療と介護の連携推進役となり、地域支援体制の充実を図ります。

【数値目標について】(P23)

表Ⅲ-1 経営効率化の目標

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
医業収支比率(%)	93.3	95.2	96.3	96.8	97.3
経常収支比率(%)	96.5	98.7	99.5	99.6	100.0
病床利用率(一般病床)(%)	81.9	84.5	87.3	86.2	85.0

表Ⅲ-2 急性期病院機能の強化に係る目標

	H28年度目標	H29年度目標	H30年度目標	H31年度目標	H32年度目標
平均在院日数(日)	12.2	11.9	11.6	11.3	11.0
新入院患者数(人)	17,560	17,750	17,930	18,180	18,340
紹介率(%)	66.0	69.5	74.0	77.5	80.0
逆紹介率(%)	57.8	59.6	61.4	63.2	65.0
入院平均単価(円)	58,917	60,627	61,340	62,670	64,000
外来平均単価(円)	16,502	17,248	18,360	19,180	20,000